

渋沢栄一の思い、考え、 (経営)思想

ケンジコンサルタントグループ

代表・中小企業診断士 亀村 治

2024年7月3日

新札発行に寄せて

スピーチ

渋沢栄一の座右銘

“○○○○”は、引用または講話内容(渋沢栄一)

座右銘: 『忠恕』『相愛、忠恕の道をもって交わる』墨書・揮毫

忠恕一貫の思想(その他にも幾つかある)

“経済を進めるには、忠恕の念をもってするにあり”

忠恕とは「思いやりが深い意」の漢語的表現 忠はまごころ 恕は思いやり

英語 CONSIDERATION コンシダレーション=相手の気持ちを考える

仁(儒教)⇔愛(キリスト教)⇔慈悲(仏教)⇔慈愛(道教)

リベラルを忠恕と訳す👉司馬遼太郎 人に強制しない

『夫子の道は忠恕のみ』(「論語」孔子)

『わが道は、一をもって貫く』(同上) 貫一と命名 例 諸井 貫一

座右の書 ① 行動指針・処世の方針・人生の規範: 「論語」 ポケット論語

儒教の古典 (四書一論語・孟子・大学・中庸、五経一易経・書経・詩経・礼記・春秋)

座右の書 ② 「古文真宝」 中国の詩文の選集・漢詩のテキスト 李白・杜甫ほか 作漢詩の趣味

< 主な参考文献 > 「渋沢栄一伝」「青淵百話」「論語と算盤」「雨夜譚」「渋沢栄一」「論語講義」「経営論語」
「穂積歌子日記」「青淵」「渋沢栄一訓言集」「渋沢栄一伝記資料」「埼玉・人とこころ双書」

渋沢栄一の処世訓・思い

- 『共存共栄』 「共生」 自他ともに生存し、繁栄すること。二つ以上のものが対立することなく、
(座右銘) 互いに助け合い、共に栄えること
渋沢栄一の言動の根底には、この「共存共栄」の精神が脈々と流れている
- 『経世済民』 世のため人のために奉仕する。世の中をよく治めて人々を苦しみから救うこと、
またそうした政治をいう。「経済」の語源 公益に対する志
- 『温故知新』 「古きを訪ねて新しきを知る」 前に学んだことや昔の事柄をもう一度調べたり
考えたりして新たな道理や知識を見出すこと
- 『順理則裕』 「道理に従ってなすべきことをすれば、豊かになっていく」 公正無私
(座右銘) “公正・妥当・経済的合理性をもって処す” “物事の本質、道理をとらえる”
“人生は努力にあり”
- 『自利他利』 「利他をもって自利となす」 “商業上の真意義は自利他利にあり”

渋沢栄一の処世訓・思い

- 『徳は弧ならず』 「徳は弧ならず必ず隣在り」 “徳を身につけた人は、ずっと独りぼっちということはない。必ず身近に慕い理解してくれる人が現れるものだ”
- 『天命を待つ』 “人事を尽くして天命を待つ” “不毛の議論をせず、黙して語らず”
- 『名を成すは常に窮苦の日にあり』 (名を成すは常に窮苦の日にあり、事に敗るは多く得意の
(座右銘) 時による) 『成名每在窮苦日 敗事多因得意時』 ⇒この七言絶句を揮毫・墨書
- 『晩晴を尊ぶ』 「天意夕陽を重んじ、人間晩晴を尊ぶ」 (李商隠) 李商隠→晩唐の漢詩人
(座右銘) “老後に楽隠居を決め込むのではなく、富と地位それに知恵と誠実さをもって、世のため人のために奉仕したい、そのことによって晩晴を少しでも清くあらしめたい”
- 『達観主義』 達観:中庸を得た観察 “楽観も悲観もせず、達観する”
中庸 (礼記)⇒考え方・行動などに偏りがなく、バランスのとれたゆがみのないさま
- 『脱迷信』 (合理性) “怪力・乱心を語らず” 迷信の排除 “公正・妥当・経済的合理性をもって処す”

渋沢栄一の社会福祉・教育への思い

=市場経済の中で取り残されがちな弱者を支援する社会福祉や社会の基盤として大切な教育にも力を入れる==
「実業による私利は公益に資するべき」との考えから社会福祉や教育の支援にも労を惜しまず

- 社会福祉事業 慈善事業の精神 東京市養育院（現:東京都健康長寿医療センター、都立萩山実務学校・石神井学園・船形学園） 滝乃川学園
中央慈善協会 中央盲人福祉協会
- 医療事業 博愛の精神 日本赤十字 東京慈恵医院(現:東京慈恵会医大) 済生会 聖路加国際病院
感染症等の予防・撲滅 結核予防協会
- 教育事業……164校 （実業教育48 女子教育27 その他89 ）
実業(商業)教育 実業教育の高等化 官尊民卑の打破 実業界の社会的地位の向上
実務能力・グローバルな視点から経営活動のできる人材の育成
東京商法講習所⇒一ツ橋大学 東京専門学校⇒早稲田大学 大倉商業学校⇒東京経済大学
明治大学商科大学⇒明大商学部 工手学校⇒工学院
岩倉鉄道学校 北豊島郡立商工学校⇒都立北豊島工科高等学校 深谷商業学校
私学教育 漢学塾二松学舎⇒二松学舎大学 同志社大学
女子教育 渋沢の望む将来の女性像 国際化へも対応する「知識ある良妻賢母」
教育環境の整備 東京女学館 日本女子大学 跡見高等女学校
公民教育・育英事業 人を育てる就学環境の整備 奨学金・寄宿舎等 埼玉学生誘掖会 静岡育英会

渋沢栄一の国際平和の思い

- 国際協調・国際平和 民間外交 対アメリカ、対中国等 日米協会 日華実業協会 日仏会館
“国際社会においても道義に基づく行動” “営利活動と道義が一致する社会の建設の実現”
“国境を越えて自由で活発な市場経済を実現し人類全体を豊かにする”
日米友好親善 渡米・訪米団長 友好人形の交換 青い目の人形 市松人形
- 1928(S3).11.11 第10回(第一次世界大戦)休戦記念日講演 国際聯盟協会・会長
“経済方面から世界の協調を図る” “国際間の経済の協調”
“一国の利益のみを主張せず、他国の利害を顧みる” “政治経済を道徳と一致”
“共存共栄” “経済の平和・経済協調” “他に対する思いやり・忠恕の心”
「誠は天の道なり、これを誠にするものは人の道なり」(中庸)
“天は公正無私、常に誠をつくして万物を生育している。人間は互いに欺きあい争い、天の誠を人の道とすることを忘却している” 「至誠」: まごころ、誠実な心をもって人や物事に当たる
“一人一国の利益のみを主張せずに、政治経済を道徳と一致せしめて、真正なる 世界の平和を招来せんことを諸君とともに努めたい”
- ノーベル平和賞候補に推薦される 生前 2回 (日米関係等の改善への取り組み)

渋沢栄一の経営思想

『道徳経済合一説』「論語と算盤」“論語と算盤は甚だ遠くして近いもの”

“仁義道徳と生産殖利は合一する、共に進化するもの”

“道徳と経済の一致” “政治・経済と道徳の一致”

“道義に則った活発な企業活動を展開して豊かな社会を実現する”⇒順理即裕

倫理と利益の両立 公益と私益の両立 “浮利を追わず”⇒投機を戒め

“不義の富は、我においては浮雲のごとし”

“企業経営の目的は、社会奉仕(貢献)であり、利潤はその結果”

- 『共存共栄』 自他ともに生存し、対立することなく、互いに助け合い、共に栄えること
「利他を以って自利となす」 「自利他利」 “商業上の真意義は自利他利にあり”
“経済の真理は、相互の利益を図るにあり”
- 『士魂商才』 士魂にして商才があること 義を重んずる武士の精神と高い志を持った商人の才覚を併せ持つ。商人道 武士道 ⇒ 道義・恥の文化、質素剛健
- 『合本主義』 (経営民主主義) 合本興業・合本組織 株式会社等の会社組織
合名会社・匿名組合 (小規模な個人事業)
多くの人の知恵と資金を集めて、事業を経営する

渋沢栄一の経営思想

- 『学問と実際の結合』（知行合一） “事業経営も理論と実際、学問と事業が互いに並行して発達してこそ、真の興隆ができる”
- 『量入為出』 支出・収入のバランスを図る 収入の範囲でやり繰りする 健全財政
- 『事業一元主義』 一つの事業に専心して従事すること。一つひとつの事業に専心専一をもってのぞむ態度が大切とした 渋沢栄一は「文鎮」の役割 大功無名
- 『地方事業の振興』 “国富の増進は地方産業の育成にあり” 国の発展にとって、地方事業の勃興・事業の必要性を唱えた。(地方・郷土の振興)
“国家にとっての地方は、真に元気の根源・富裕の源泉”
- 『労使不二(労使無差別)』 労使は単なる温情的労使関係でなく、経済合理性を加味した、労使一体となった経営を推進した。分かち合い・痛み分けの論理的経営をいう

渋沢栄一とSDGsと社会的責任

- 『論語と算盤』 1916年(大正5年)初版 東亜堂書房 編者梶山彬 訓話集一講話・訓話
竜門雑誌・青淵百話 ポケット論語
 - ・中国語に翻訳 2020年(令和2年)出版 上海交通大学出版社 亜東書店
 - ・大谷翔平選手 北海道日本ハムファイターズ・栗山英樹監督 若手選手に座学で配布
“人間として成長しなければ、選手としても成長できない”
- 利益追求の企業活動・経済活動⇒ 企業の不祥事 コンプライアンス問題
経済のグローバル化・デジタル技術・ネット社会の進展⇒ 拝金主義・利己主義、
詐欺等の反社会的行為、格差社会・貧困、分断、世界的紛争等の増加 傾向加速
- 渋沢栄一の思い・考え・(経営)思想 見直し・再評価
SDGs (持続可能な開発目標ー現在から未来に向けて、人間や地球平和及び繁栄の
ための共通の行動計画) の達成と企業等の社会的責任を図る
 - * 新札発行 ①グローバルな行動指針・指導理念の一つとして世界に広めていく 啓発・
宣伝・流布 ② 英語に翻訳して世界の指導者に配布・クラウドファンディング
- 経営学者 ピーター・ドラッカー 渋沢の経営思想を高く評価 “ロスチャイルド、ロックフェ
ラー等の業績を超えるもの”

ご清聴ありがとうございました

なお実業界で奔走している時期には、積極的にこれらの持論をほとんど口にしていませんでした。(言葉より体現)

還暦ごろから持論を説き始め、強く主張するようになったのは、1909年(明治42年)以降、数え70歳(古希)の実業界引退後とされています。

追記 時期は未定ですが、来年(令和7年)ごろには、
渋沢栄一記念財団から「論語と算盤」の英訳版が
上市される予定です。

(財)渋沢栄一記念財団 (維持)会員
経営哲学学会 会員
(社)板橋中小企業診断士協会 会員
亀村 治
カメラ ハジメ